

令和5年10月23日

令和5年度第2回高知市高齢者
保健福祉計画推進協議会資料

地域共生社会推進課

在宅療養・ACPに関する調査結果

在宅療養に関する調査の結果について

1 目的

医療と介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができることを支援するために、在宅医療・介護連携推進事業を実施している。その中で、在宅での看取りも含めた在宅療養についての高齢者の意識を調査し、今後の事業の推進の検討材料とする。

2 調査方法

次期高齢者保健福祉計画策定に向けた下記関連調査において、在宅療養及び在宅看取り等に関する調査を追加項目として実施。

- (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- (2) 在宅介護実態調査

【参考】各調査の詳細(1) 調査対象・調査方法

	調査対象	調査対象者数	調査方法
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 【調査期間：R 5年5月30日～6月26日】	○一般高齢者 ○事業対象者 ○要支援1・2	5,000人 ⇒有効回答数2,387人 【有効回答率：47.74%】	郵送配布及び郵送 回収によるアン ケート調査
	65歳以上の市民で、圏域区分で無作為に抽出した、要介護認定を受けていない方	※R 2年度調査時 4,999人 ⇒有効回答数2,823人 【有効回答率：56.47%】	
在宅介護実態調査 【調査期間：R 4年8月19日～R 5年2月1日】	○要支援1・2 ○要介護1～5	624人 ⇒有効回答数617人 【有効回答率：98.88%】	認定調査員による 聞き取り調査
	高知市在住で、在宅で要介護認定（要支援含む）の更新時期である方	※R 元年度調査時 646人 ⇒有効回答数633人 【有効回答率：97.99%】	

【参考】各調査の詳細(2) 調査内容

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 【調査対象】一般高齢者, 要支援1・2

(1) 人生会議 (ACP (アドバンス・ケア・プランニング)) についてお聞きします。ご自身の状況に近い内容を選択してください。(1つだけ○)

(2) あなたは, 人生の最期をどこで迎えたいと希望しますか。(1つだけ○)

(3) (2) で回答した場所は実現できると思いますか

4) (3) で「2 実現は難しいと思う」又は「3 分からない」と回答された方にお聞きします。理由は何ですか。(3つまでに○)

- (1)
1. 自分が望む医療やケアなどについて考えたことはない
 2. 自分が望む医療やケアなどについて考えたことがあるが, 家族などの身近な人と話し合ったことはない
 3. 自分が望む医療やケアなどについて, 家族などの身近な人と話し合っている (又は話し合ったことがある)
- (2)
1. 自宅
 2. 医療機関
 3. 老人ホームなどの施設
 4. 分からない
 5. その他
- (3)
1. 実現できると思う
 2. 実現は難しいと思う
 3. 分からない
- (4)
1. 家族への介護負担がかかるから
 2. お金がかかるから
 3. 住宅環境が整っていないから
 4. 希望する場所でどのような医療や介護のサービスが受けられるか分からない
 5. 介護してくれる家族がいないから
 6. 希望する場所で最期を迎えることのイメージができない
 7. その他

在宅介護実態調査

【調査対象】要支援1・2, 要介護1~5

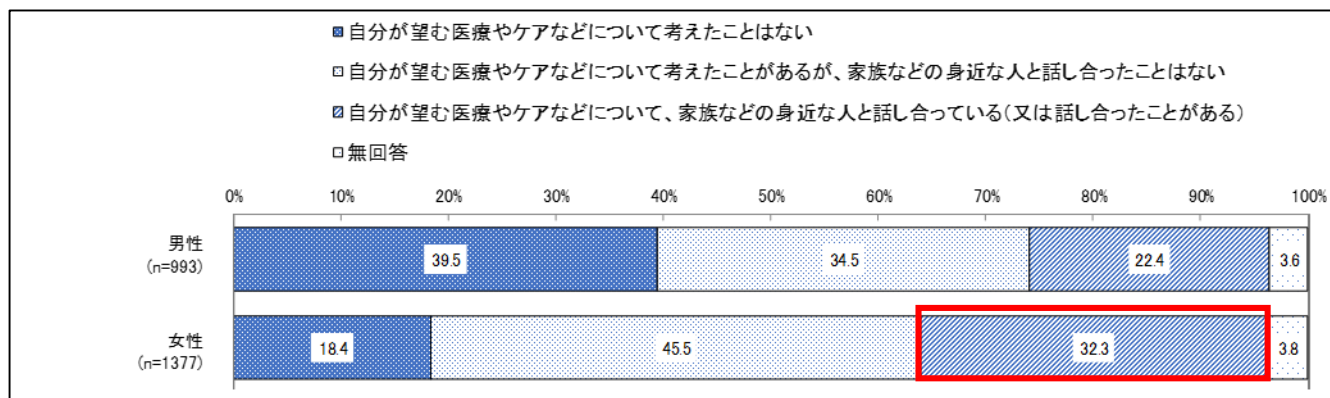
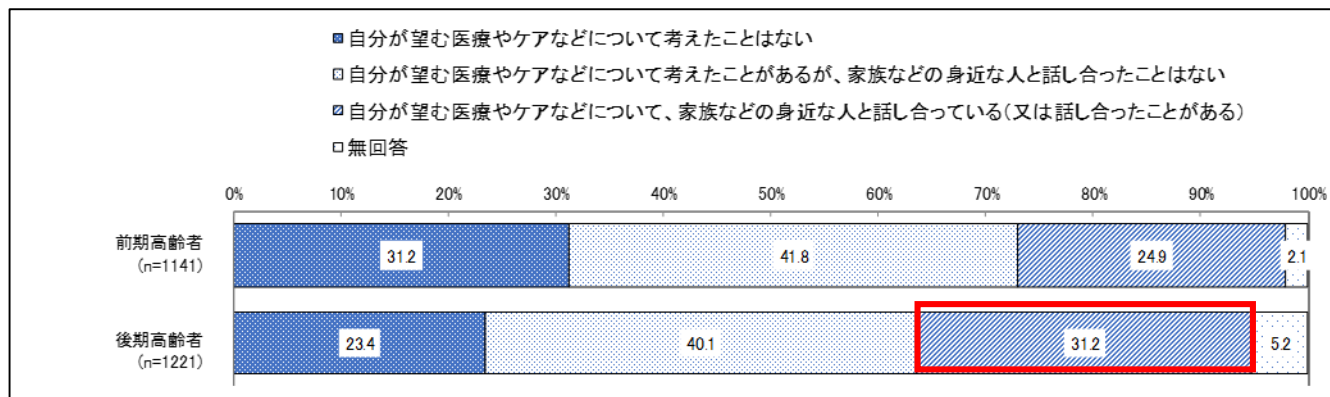
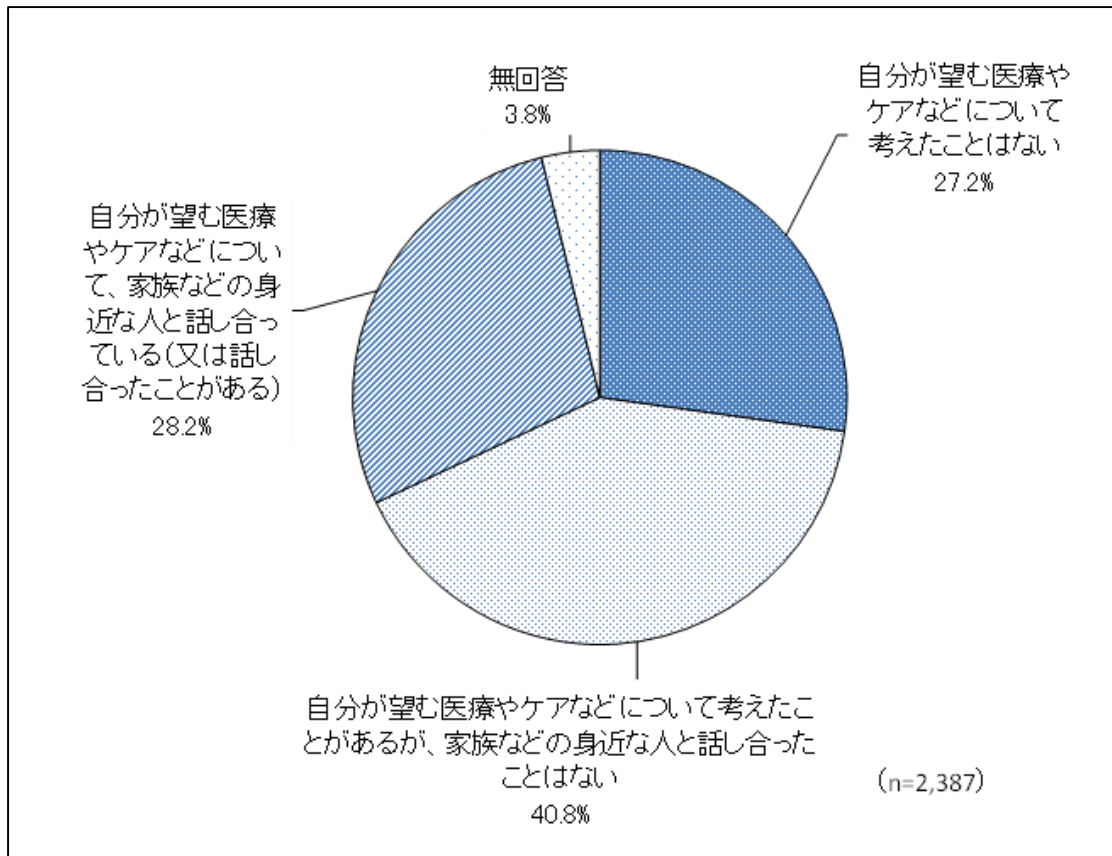
将来, ご本人 (認定調査対象者) は, 寝たきりになった場合 (もしくは今後), どこで生活したいですか (複数回答可)

1. 家族に介護してもらいながら, できる限り在宅で暮らしたい
2. 介護サービスを利用しながら, できる限り在宅で暮らしたい
3. 家族の介護と介護サービスの利用を組み合わせ, できる限り在宅で暮らしたい
4. 特別養護老人ホームなどの福祉施設に入り, 介護を受けたい
5. 有料老人ホームやケアハウスなど, 高齢者向けのケア付き住宅に入りたい
6. 病院に入院して介護を受けたい
7. その他の場所 (具体的に:)
8. 分からない

調査結果（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

設問（1）人生会議（ACP（アドバンス・ケア・プランニング））についてお聞きします。ご自身の状況に近い内容を選択してください。

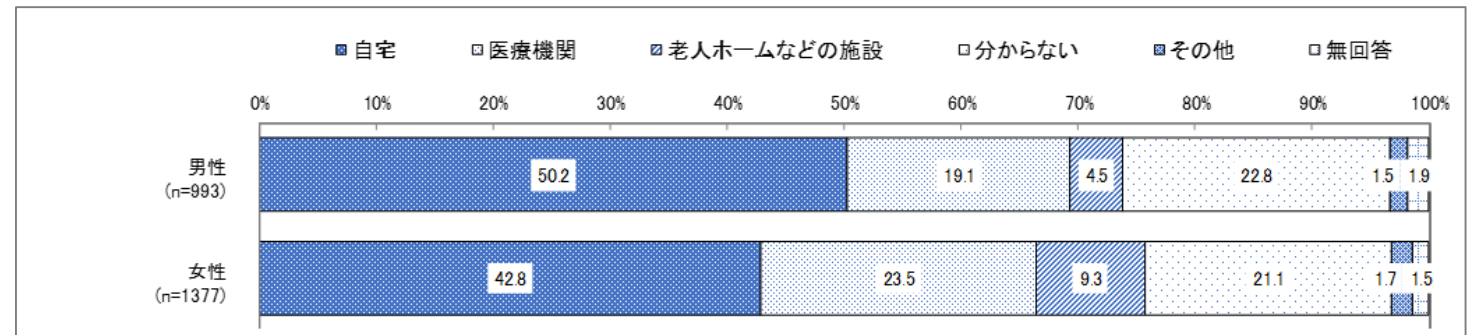
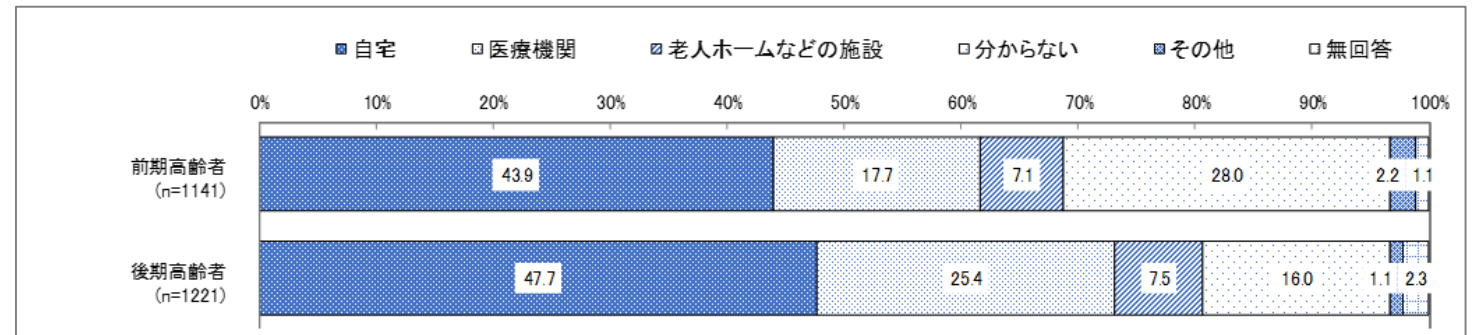
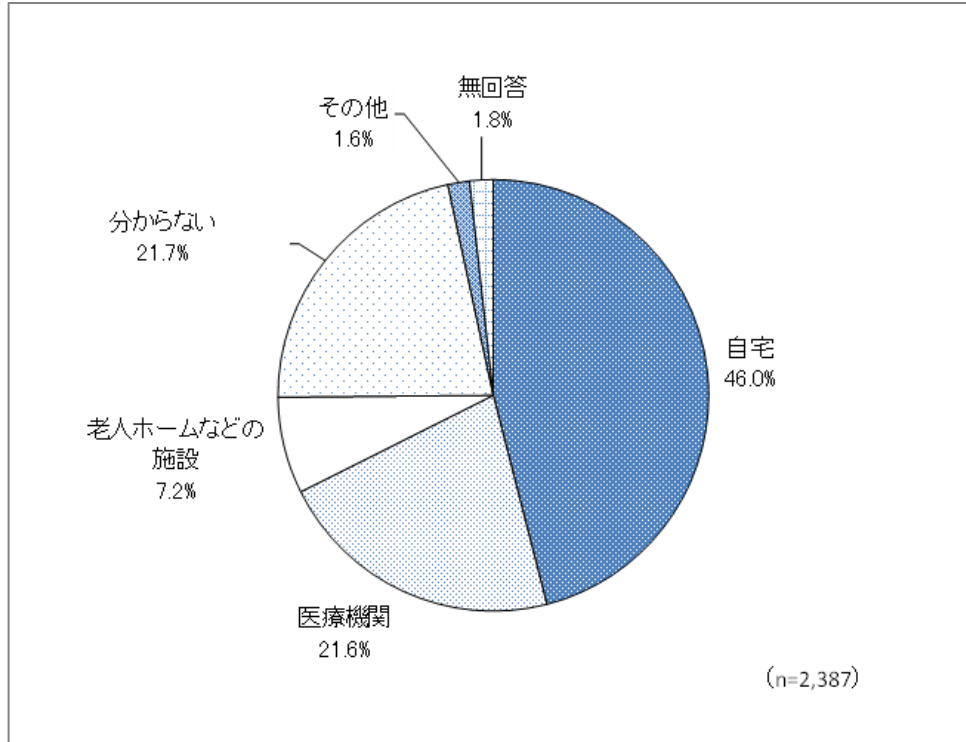
- ・自分が望む医療やケアなどについて、「考えたことがあるが、家族などの身近な人と話し合ったことはない」と回答した人が40.8%と最も多く、「家族などの身近な人と話し合っている（又は話し合ったことがある）」と回答した人は28.2%であった。
- ・年齢層別では、前期高齢者よりも後期高齢者の方が、「家族などの身近な人と話し合っている（又は話し合ったことがある）」と回答した人の割合が高かった。
- ・性別では、男性よりも女性の方が、「家族などの身近な人と話し合っている（又は話し合ったことがある）」と回答した人の割合が高かった。



調査結果（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

設問（2）あなたは、人生の最期をどこで迎えたいと希望しますか。

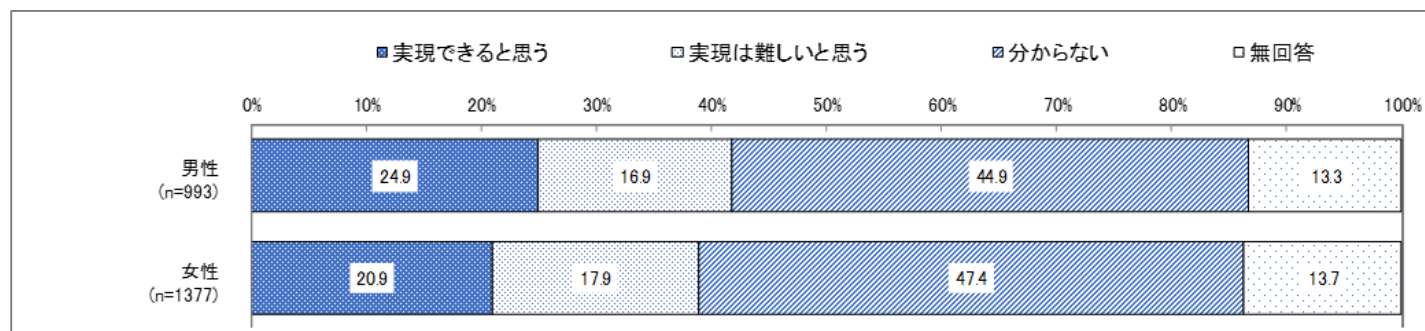
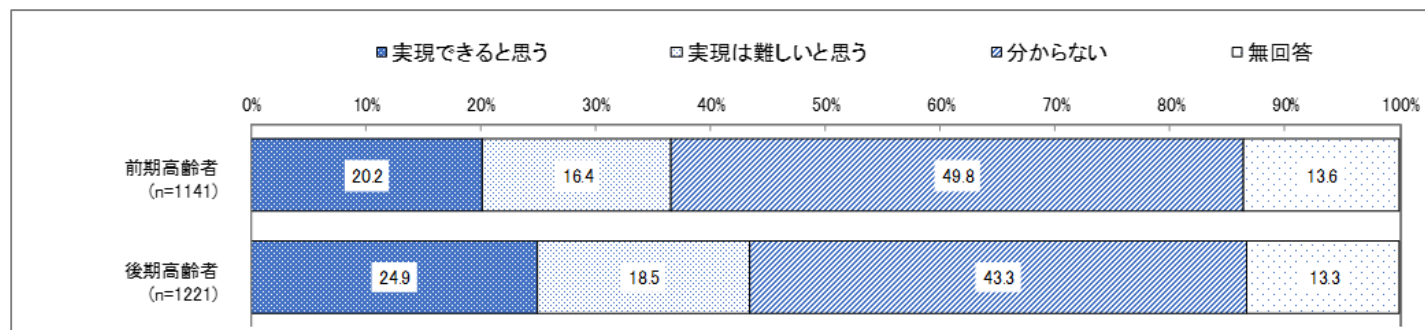
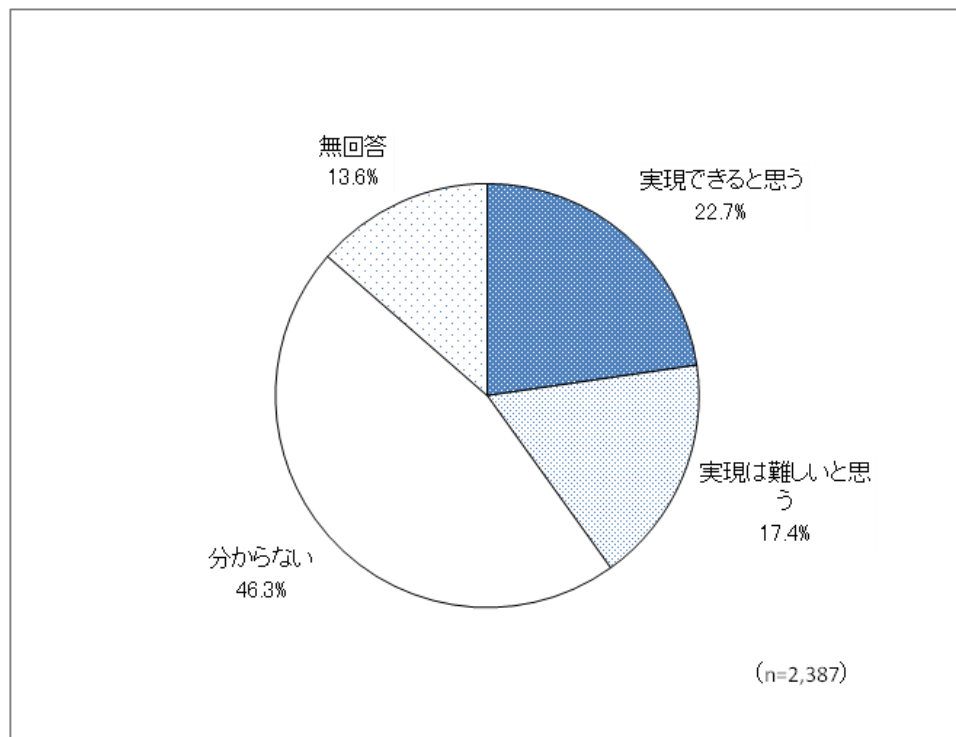
- 人生の最期を「自宅」で迎えたいと希望した人は、46.0%と最も高く、次いで「分からない」（21.7%）、「医療機関」（21.6%）の順であった。
- 年齢層別では、前期高齢者よりも後期高齢者の方が「自宅」や「医療機関」と回答した人の割合が高く、前期高齢者の方が「分からない」と回答した人の割合が高かった。
- 性別では、女性よりも男性の方が「自宅」と回答した人の割合が高く、女性の方が「医療機関」や「老人ホームなどの施設」と回答した人の割合が高かった。



調査結果（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

設問（3）（2）で回答した場所は実現できると思いますか。

- 人生の最期を迎えたいと希望する場所は「分からない」と回答した人が46.3%と最も多く、「実現できると思う」は22.7%、「実現は難しいと思う」は17.4%であった。
- 年齢層別では、前期高齢者よりも後期高齢者の方が「分からない」と回答した人の割合が低かった。
- 性別では、女性よりも男性の方が「実現できると思う」と回答した人の割合が高く、女性の方が「実現は難しいと思う」や「分からない」と回答した人の割合が高かった。

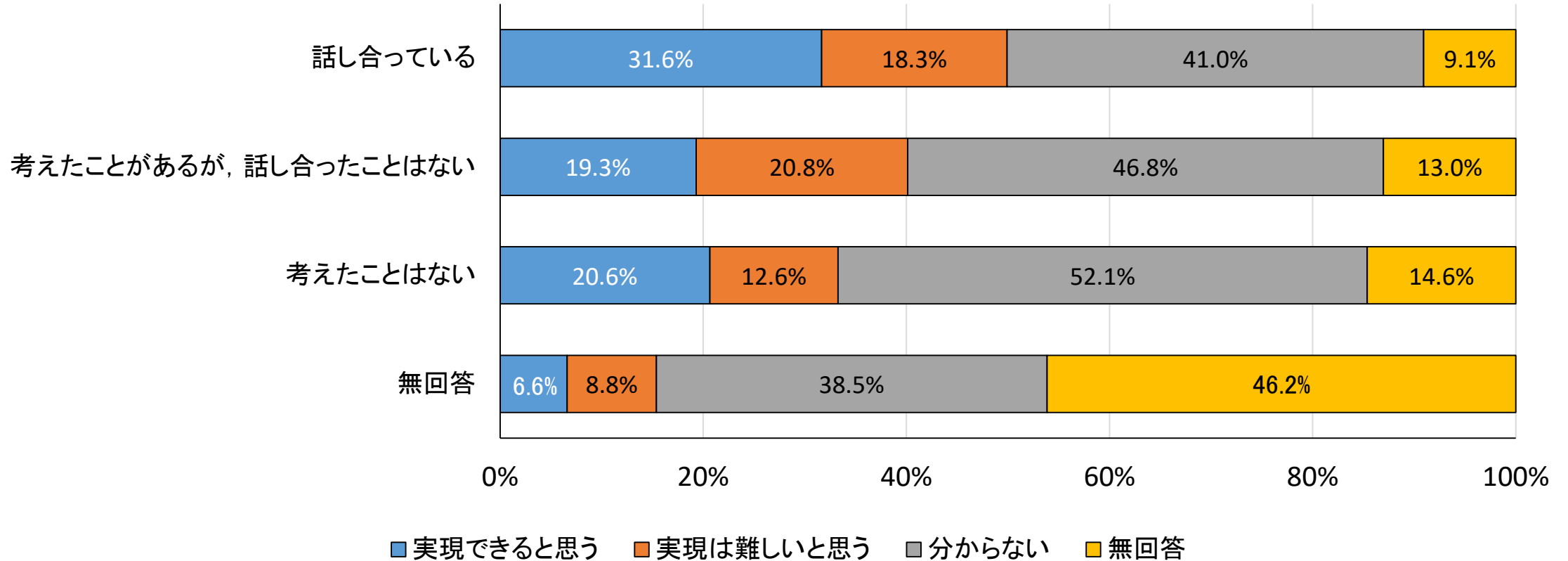


調査結果（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

人生会議（ACP（アドバンス・ケア・プランニング））の状況と希望する最期の療養場所の実現の可能性について分析

- 人生会議の状況で、「自分が望む医療やケアなどについて、家族などの身近な人と話し合っている（又は話し合ったことがある）」と回答した人が「実現できると思う」と思う割合が31.6%で、「考えたことがあるが、話し合ったことはない」や「考えたことはない」と比べて高い割合であった。

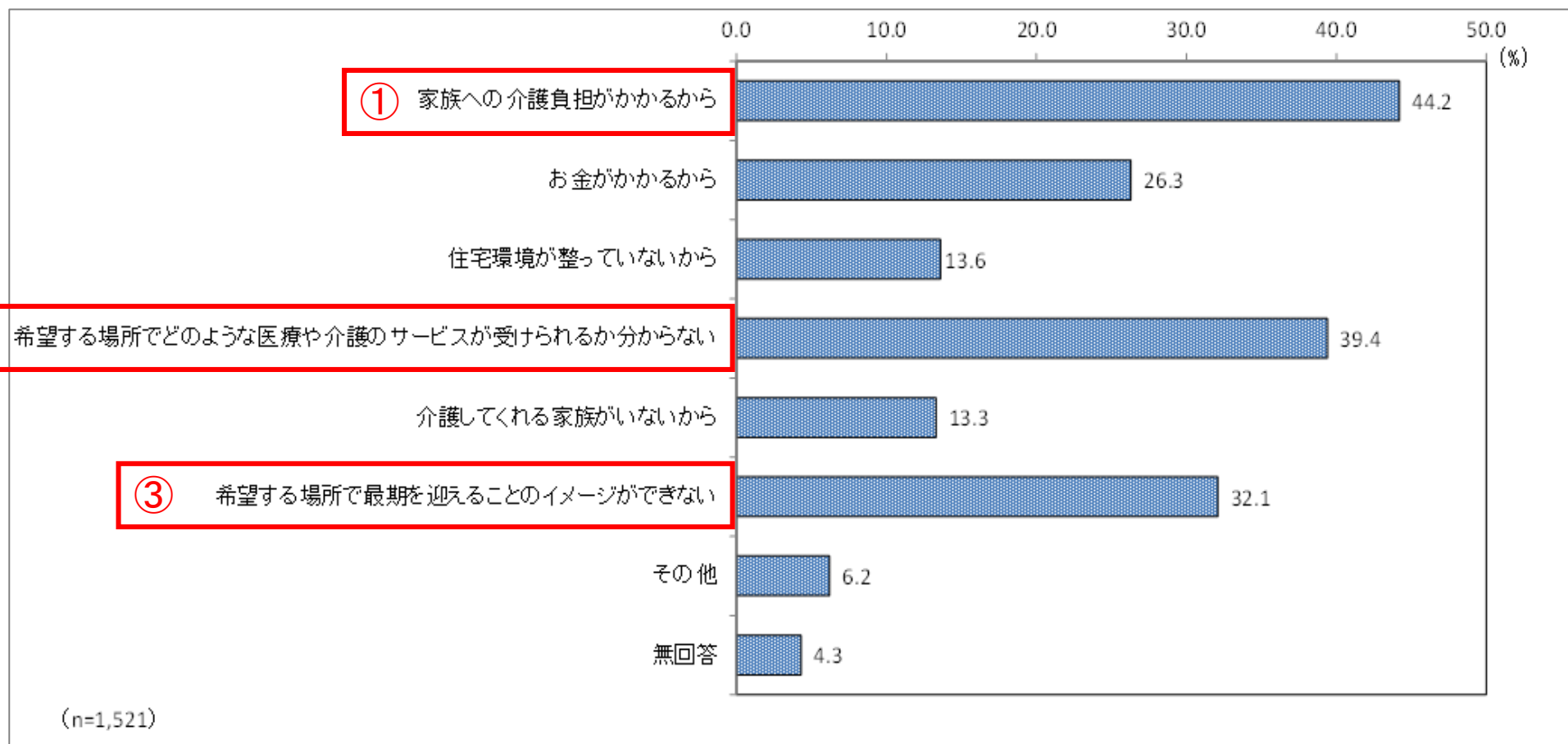
人生会議の状況と希望する最期の療養場所での実現の可能性



調査結果（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

設問（４）【（３）で「２.実現は難しいと思う」又は「３.分からない」と回答された方にお聞きします】 そう思う理由は何ですか。

- 希望する場所での実現が難しい、又は分からない理由として、順に「家族への介護負担がかかるから（44.2%）」、「希望する場所でのような利用や介護のサービスが受けられるか分からない（39.4%）」、「希望する場所で最期を迎えることのイメージができない（32.1%）」であった。

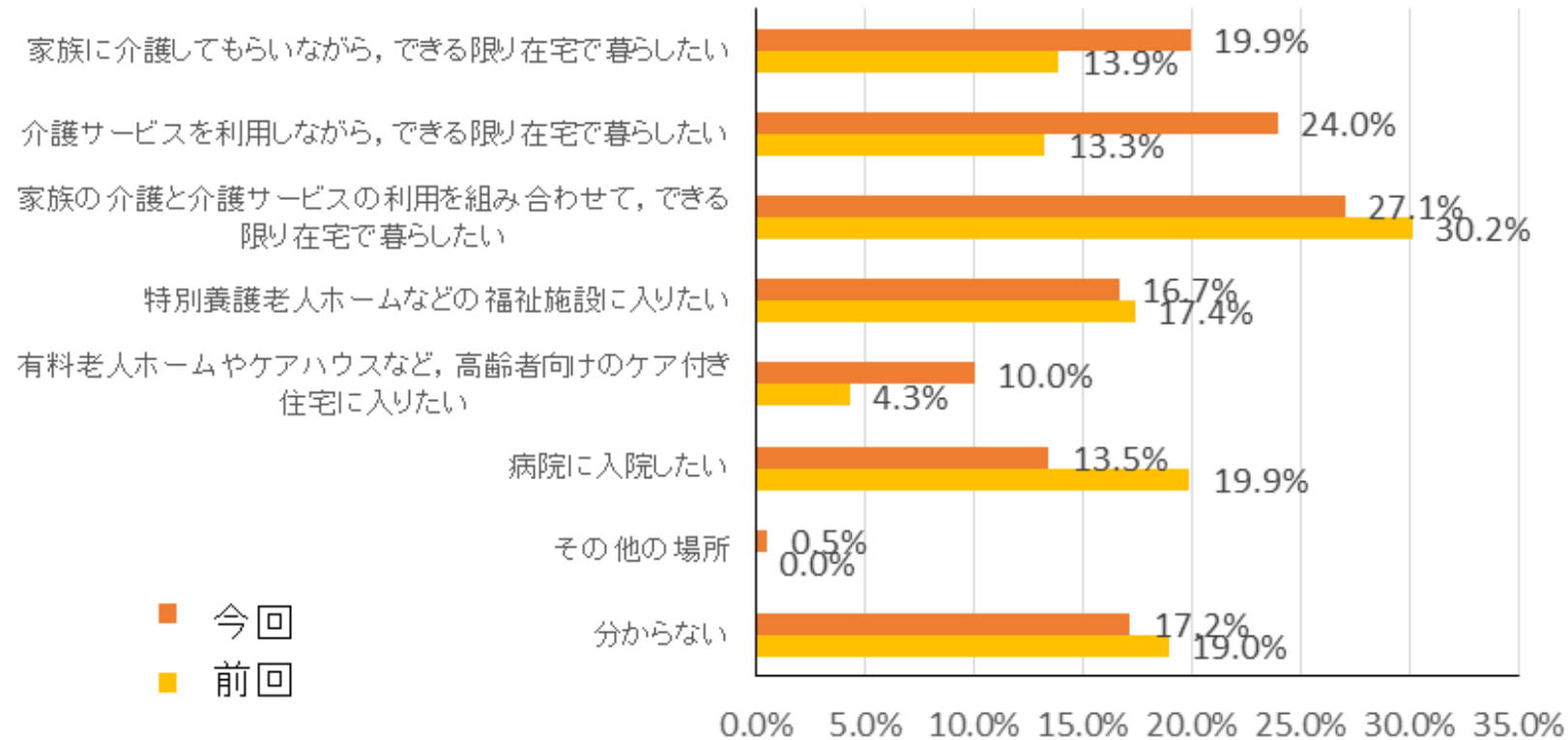


調査結果(在宅介護実態調査)

設問(1) 将来,ご本人(認定調査対象者)は,寝たきりになった場合(もしくは今後),どこで生活したいですか(複数回答可)

- 療養場所として,「家族の介護と介護サービスの利用を組み合わせ,できる限り在宅で暮らしたい」と回答した割合が27.1%と最も高く,次いで「介護サービスを利用しながら,できる限り在宅で暮らしたい(24.0%)」,「家族に介護してもらいながら,できる限り在宅で暮らしたい(19.9%)」であり,「できる限り在宅で暮らしたい」と回答した人の割合が高かった。
- 前回と比較すると,「病院に入院したい」と回答した割合は低く,「家族に介護してもらいながら,できる限り在宅で暮らしたい」や「介護サービスを利用しながら,できる限り在宅で暮らしたい」,「有料老人ホームやケアハウスなど,高齢者向けのケア付き住宅に入りたい」と回答した人の割合が高かった。

寝たきりになった場合の療養場所(在宅介護実態調査)複数回答あり



考察

- 「自分が望む医療やケアなどについて考えたことはない」人が全体の3割弱であった。今後、様々な機会を捉えてACPに関する啓発に取り組む必要がある。
- 「自分が望む医療やケアなどについて、家族などの身近な人と話し合っている（又は話し合ったことがある）」と答えた人が3割弱となっており、人生の最終段階で希望する医療やケアについて、身近な人と話し合っていく機会づくりが必要があると考えられる。
また、「自分が望む医療やケアなどについて、家族などの身近な人と話し合っている（又は話し合ったことがある）」と答えた人が、「話し合ったことはない」や「考えたことはない」と答えた人よりも、人生の最期を希望する場所で実現することの可能性について、「実現できると思う」と回答した人が多かったことから、家族などの身近な人と話し合っていく機会づくりに取り組む必要があると考えられる。
- 希望する場所で最期を迎えることについて、「実現は難しい」又は「分からない」理由として、「家族への介護負担がかかるから」や「希望する場所でどのような医療や介護のサービスが受けられるか分からない」、「希望する場所で最期を迎えることのイメージができない」と回答している人が多かったことから、在宅療養生活や利用できるサービスに関する啓発に取り組むことで、ご自身が希望する最期の生活を実現できる可能性が高まると考えられる。